



公益財団法人  
青山音楽財団  
AOYAMA MUSIC FOUNDATION  
KYOTO, SINCE 1990

第12回 奨学生成果披露演奏会  
若き音楽家たちによる  
音の祭典



Vol.1 3.8 sat

Vol.2 3.9 sun

Vol.3 3.16 sun

各 15:00 開演 (14:30 開場)

会場 / 京都 青山音楽記念館 バロックザール

主催：公益財団法人青山音楽財団

後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会

感染症対策に  
ご協力ください

館内ではマスクの着用を推奨しております。お話をされる際、プラボーなどのお声がけをされる際はマスクの着用をお願いいたします。咳エチケットの実践にご協力ください

気持ちよく  
ご鑑賞いただくために

○写真撮影・録音・録画はお断りいたします。○携帯電話の電源、時計のアラームはお切りください。補聴器をご利用のお客様は発信音が出ないよう、お取り扱いにご注意ください。  
○またお手回り品など音の出るものの取り扱いはお断りください。○客席での飲食はお断りいたします。

# ご挨拶

本日は、「第12回奨学生成果披露演奏会 若き音楽家たちによる音の祭典」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本年度も、11の財団指定大学から優秀な45名の学生を推薦いただきました。ご尽力くださった各大学の先生方、関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本演奏会は、奨学生たちが日々の研鑽の成果を披露する場として、毎年ご好評をいただいております。今年も3日間にわたり、若さあふれる演奏をお届けいたします。出演者一人ひとりが、情熱を注いで磨き上げた演奏技術を存分に発揮し、互いに切磋琢磨しながら大きく成長していくことを願っております。

また、皆様には、未来を担う若き音楽家たちへの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私どもは、これまでに500名を超える学生に奨学金を給付してまいりました。過去に本演奏会に出演した奨学生が、その後も研鑽を積み、著名なコンクールなどで栄誉に輝いたという嬉しい知らせが届いております。また、新人助成公演や青山音楽賞などの財団事業を通じて、多くの才能が出会い、新たな音楽活動へとつながっていることを実感しております。

青山音楽財団は、日本の音楽文化の発展を目指し、これからも若き音楽家たちの育成と支援に尽力してまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人青山音楽財団

理事長 青山 敦

本日はご多忙の中、「第12回奨学生成果披露演奏会 若き音楽家たちによる音の祭典」にご来場賜り、誠にありがとうございます。

青山音楽財団は、故・青山政次氏より寄贈された青山音楽記念館 パロックザールを拠点に、音楽文化の普及・発展と、次世代を担う音楽家の育成を目的として設立されました。その理念のもと、さまざまな事業を展開しております。

2011年の公益財団法人への移行を機に、新たに「育成支援事業」を立ち上げ、その柱の一つとして奨学金事業を発足いたしました。本年度は、指定大学11校から45名の優秀な学生を青山音楽財団奨学生として迎え、支援を行ってまいりました。

本日の「若き音楽家たちによる音の祭典」は、奨学生が一年間の研鑽の成果を披露する場であり、未来を担う若者たちの熱意あふれる演奏をお楽しみいただける貴重な機会です。

日々の練習を積み重ねることで、確かな技術を身につけることができます。しかし、人前での演奏は、練習だけでは得られない貴重な経験となり、演奏家として大きく成長する機会となるでしょう。

真に優れた芸術家は、質の高い聴衆との交流を通して育まれるものと確信しております。皆様には、若き音楽家たちを温かく、そして時には厳しく見守りながら、共に育ていただければ幸いです。

末筆ながら、今後とも公益財団法人青山音楽財団へのご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 青山音楽財団

育成支援事業選考委員会 選考委員長

竹林 秀憲

# Vol.1 2025.3.8sat 15:00 開演 (14:30 開場)

## 01. 牧 真人 まき まいと 東京藝術大学 3年 / オルガン

ペーム：コラル・パルティータ「ああいかにはかなき、ああかに虚しき」

G. Böhm: Choralpartita "Ach wie nichtig, ach wie flüchtig"

この作品は、ドイツの教会礼拝で歌われていたコラル旋律を基にした変奏曲です。「人の人生は儚く虚しいが、神を畏れる者は永遠に立つ」と語るコラルに対し、ペームがどのような変奏を展開しているのか、ポジティブオルガンのストップの変化とともに楽しみください。

【歌詞訳 CD】J.S.バッハ：オルガン小曲集 全曲】ピーター・ハーフォード（オルガン／指揮）、杉山好解説（デッカ、1982年）より】

ああ、いかにむなしき、ああ、いかにかなき、人の生命は。

もやの立ち昇りては、また消え失すること、

われらの生命もかくてありなん、とくと見よかし！



【Profile】春日井市出身。母教会の礼拝奏楽をきっかけに14歳よりオルガンを始め、教会での演奏を中心に活動を続けている。ホサナ・キリスト教会オルガニスト。オルガンを吉田恵、廣江理江、通奏低音を椎名雄一郎、大塚直哉、チェンバロを廣澤麻美の各氏に師事。

## 02. 安永 圭佑 やすなが けいすけ 愛知県立芸術大学 4年 / トランペット

ピアノ  
阿部 ひかる

ボザ：カプリース 第1番 op.47

E. Bozza: Caprice No.1, op.47

ウジェーヌ・ボザはフランスの作曲家で、多くの管楽器ソロ作品を残しています。トランペットのためにも《ルスティーク》や《フリガリアーナ》などの名作があり、今回演奏する《カプリース》もその一つです。タイトルの「カプリース」はフランス語で「気まぐれ」を意味し、その名の通り、時にエネルギーに、時にゆったりと、豊かな表情と美しいコントラストをもつ作品です。



【Profile】さいたま市出身。埼玉県立春日部高校卒業。学内選抜により、学内第56回定期演奏会「優秀学生による独奏」に出演。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIXに参加。これまでにトランペットを田本一、重井吉彦、井上圭、長谷川智之の各氏に師事。Otto Sauter氏のマスタークラスを受講。

## 03. 大石 彩代 おおいし さよ 京都市立芸術大学 4年 / ヴァイオリン

ピアノ  
飯田 華怜

ヴィエニャフスキ：華麗なるポロネーズ 第1番 二長調 op.4

H. Wieniawski: Polonaise brillante No. 1 in D Major, op.4

ヘンリク・ヴィエニャフスキ（1835-1880）はヴァイオリニストであり作曲家です。ポロネーズは彼の故郷ポーランドの民族舞曲であり、高らかなファンファーレで幕を開けるこの曲は、華やかさ、舞曲特有の躍動感、スラヴの情緒、そして超絶技巧を兼ね備えています。魅力あふれるこの作品を、どうぞ最後までお楽しみください。



【Profile】第10回あおによし音楽コンクール奈良プロフェッショナルステージグランプリ、併せて総務大臣賞。第47回全日本ジュニアクラシック音楽コンクールヴァイオリン部門大学生の部第1位、第24回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門Age-U第3位など。これまでに中村年延氏、梅沢和人氏、豊嶋泰嗣氏に師事。

## 04. 成川 結衣 なりかわ ゆい 国立音楽大学 4年 / フルート

ピアノ  
井上 友美

ゴダール：3楽章の組曲 op.116

B. Godard: Suite de Trois Morceaux, op.116

バンジャマン・ゴダールは19世紀末に活躍したフランスの作曲家・ヴァイオリニストです。幅広いジャンルで作品を手がけましたが、特にサロン音楽の分野でその才能を発揮しました。今日は、彼の得意とするサロン風の作品《3楽章の組曲》より〈Allegretto〉、〈Idylle〉、〈Valse〉の全3曲をお届けします。



【Profile】第74回全日本学生音楽コンクール東京大会第1位、全国大会第3位、併せて横浜市民賞。第38回かながわ音楽コンクール第1位。第27回びわ湖国際フルートコンクール入選。ソリストとして神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演。フルートを大友太郎、高橋聖純、野原千代の各氏に師事。国立音楽大学特別給費奨学生。

きだち ひろと  
05. 木立 寛人 桐朋学園大学 4年/ヴァイオリン

ピアノ  
中山 結菜



C.シューマン:3つのロマンス op.22

C. Schumann : Drei Romanzen op.22

この作品は、1853年に作曲され、ヴァイオリニストのヨアヒムに献呈されました。夢のように美しい詩情を湛えた第1曲、内省と明るさが交錯する第2曲、そして幸福感に満ちた第3曲へと続きます。同名作品として、作曲者の夫ロベルト・シューマンも2曲、クララ自身もこの他に2曲を作曲しており、それぞれの特徴が重なり合うことから、シューマン夫妻の深い絆が感じられる作品となっています。

[Profile]青森県出身。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て、桐朋学園大学音楽学部にて特待生として入学。辰巳明子、田中晶子各氏に師事。2020年第74回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第1位、併せて東儀賞、兎東賞、日本放送協会賞、音楽奨励賞を受賞。第30回日本クラシック音楽コンクール高校の部第2位(1位なし)。2023年度青山音楽財団奨学生。

■ 休憩 ■

まつもと あいう  
06. 松本 愛布 京都市立芸術大学 4年/音楽学

研究発表「ミュージックツーリズムとK-POP——日本人を対象とするツアーを事例として——」

「日本人向けK-POPツアーから考えるミュージックツーリズム——パフォーマンス性と聖地化——」

本研究は、日本人を対象としたK-POPの聖地巡礼ツアーにおける「聖地化」のプロセスを探究することを目的とする。聖地巡礼ツアーとは、撮影地や事務所など、アーティストに関連する場所を訪れる観光行動を指す。近年、K-POPアーティストの聖地を巡るツアーが多数企画され、その数は増加の一途をたどっている。しかし、これまでのK-POP研究はグローバル化やビジネスシステムに焦点を当てたものが多く、「K-POPとミュージックツーリズム」に関する研究は限られている。また、ミュージックツーリズム研究においても、K-POPを対象とした研究はほとんど見られない。

このような背景を踏まえ、本研究では、実際に2つのK-POPツアーに参加し、ガイドの言動や聖地の構造を観察するとともに、ツアー企画会社への書面インタビューを実施した。さらに、「パフォーマンス性」や「通過儀礼」といった理論的概念を用いて分析を行い、聖地化の過程について考察した。

[Profile]3歳よりピアノを始める。K-POPを基盤とするミュージックツーリズムに関する研究を行う。



ほしな ゆうた  
07. 保科 結太 東京音楽大学 3年/ヴァイオリン

イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第5番 ト長調 op.27, No.5

E. Ysaÿe : Sonata for violin solo No.5 in G Major, op.27

この作品は、イザイの愛弟子であり、イザイ・カルテットの第2ヴァイオリン奏者であったマチュー・クリックボーンに献呈されました。第1楽章には「L'Aurore(日の出、曙光)」、第2楽章には「Danse Rustique(田舎の踊り)」という表題がつけられています。完全5度や完全4度の響きが特徴的な美しい作品です。

[Profile]第22回東京音楽大学コンクール弦楽器部門にて第1位。第2回世田谷音楽コンクール弦楽器部門F級(大学・大学院生の部)にて金賞。これまでに海野義雄、大谷康子、島根恵、中川直子の各氏に師事。東京音楽大学付属高等学校を優等賞を得て卒業。東京音楽大学特別特待奨学生。



なかの みゆ  
08. 中野 未唯 京都市立芸術大学 4年/ソプラノ

ピアノ  
原田 明里



ドビュッシー：ピエロ

ひそやかに

C. Debussy : Pierrot

En sourdine

グノー：歌劇《ロミオとジュリエット》より「私は生きたいの」

C. Gounod : "Je veux vivre", from Opera Roméo et Juliette

バンヴィル作詩「ピエロ」仏の童謡《月の光》に基づくユーモアに満ちた旋律が躍動する。ヴェルレーヌ詩集《艶なる宴》からヴァニエ夫人に捧げられた「ひそやかに」切ないため息のような旋律が特徴的。そして《ロミオとジュリエット》まだ見ぬ恋への憧れを生命力に溢れ歌い上げる。一つずつの表現を研ぎ澄ませ、お届けしたいと思います。

[Profile]京都市立京都堀川音楽高等学校卒業。大学首席として学内リサイタル、阪哲朗指揮オーケストラ協演の夕べにソリストとして出演。第1回プリマヴェーラ声楽コンクール奨励賞受賞。第11回あおによし音楽コンクール奈良声楽大学生部門、一般総合第1位。これまでに宮本由里子、小木谷好美、寺谷千枝子、日紫喜恵美の各氏に師事。

う えだ めり  
09. 上田 萌莉 東京藝術大学 4年/ピアノ

リスト：《伝説》S.175/R17より第2曲 波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ

F. Liszt : *St. François de Paule marchant sur les flots S.175/R17, No.2, Légendes*

リストがローマに移り住み、宗教的な生活に没頭していた時期の作品です。聖フランチェスコがメッシーナ海峡を渡る際、マントを波の上に広げると海が鎮まったという伝説に基づいています。厳かな主題から始まり、荒れ狂う波のような激しい楽章を経て、聖人の勝利が確立される壮大な作品です。



[Profile]第9回東京国際ピアノコンクール第1位、併せて東京新聞賞受賞。第22回日本演奏家コンクール第2位とベヒシュタイン賞を受賞し、ベヒシュタイン・カンマーオーケストラと共演。東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサートに出演。津田裕也、播本枝未子、藤田尚の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業。

かわい りな  
10. 河合 莉奈 東京藝術大学 4年/クラリネット

ピアノ  
小澤 佳永

ガロワ＝モンブラン：演奏会用小品

R. Gallois-Montbrun : *Concertstück*

ガロワ＝モンブランの《クラリネットとピアノのための演奏会用小品》は、クラリネットの音色と技巧を存分に活かした華やかな作品です。フランス特有の優美さとロマン派の情感を兼ね備え、美しい旋律と高度な技巧的パッセージが際立ちます。演奏者の表現力を引き出す本作は、演奏会やコンクールの課題曲としても親しまれています。



[Profile]北海道旭川商業高等学校卒業。「安宅賞」受賞。第1回全日本学生国際ソロコンクールグランプリ受賞。テレビ朝日「題名のない音楽会」出演。2023年度小澤征爾音楽塾参加。奏楽堂モーニングコンサート出演。これまでにクラリネットを黒岩真美、三界秀実、サトーミチヨに師事。現在、パリ地方音楽院でFlorent Héau, Paul Meyerに師事。

■ 休 憩 ■

なかの ひろのり  
11. 中野 宏紀 京都市立芸術大学 4年/作曲

チェロ  
木崎 周

中野宏紀：無伴奏チェロ独奏のための《Parasomnia》

NAKANO Hironori : *Parasomnia for Violoncello Solo*

作品タイトルの《Parasomnia》は、睡眠時随伴症と訳され、睡眠中に発生するさまざまな異常行動や幻覚などを意味します。私が幼い頃に経験したと思われるそのような現象が着想の元となり、そのイメージから2つの対照的な楽想を作曲し、2楽章制の音楽に仕上げました。第1楽章では、迫り来る恐怖や不安を表現しており、低音の刻みによって推進力を持つ激しい音楽が展開されます。一方、第2楽章では微分音を伴うハーモニクスによって浮遊感の漂う静かな音楽が奏されますが、時折、目が覚めたかのように現実へ引き戻され、第1楽章で使用された動機が顔を覗かせます。作曲にあたっては、チェロという楽器の持つ豊かな音域や音色のパレットを探索しつつ、音楽は自身の体験に基づいたパーソナルな内容を指向しました。



[Profile] 静岡県出身。東京音楽大学にて、商業音楽の作曲やレコーディング技術を学んだのち中途退学。京都市立芸術大学現代音楽研究会clubMoCoでは、2024年度部長を務める。作曲を酒井健治氏に師事。奏楽堂日本歌曲コンクール第29回作曲部門にて入選。サルヴァトーレ・シャリーノ氏によるワークショップを受講。

みつやま だいき  
12. 光山 大輝 大阪音楽大学 4年/ピアノ

ショパン：舟歌 嬰へ長調 op.60

F. Chopin : *Barcarolle Fis-dur, op.60*

ショパンが1845～46年に作曲した《舟歌》は、彼の恋人ジョルジュ・サンドとの破局、肺結核の悪化といった苦境の中で生まれました。そのため、この時期の作品は極めて少なく、どれも特別な意味を持っています。水面に揺れるような美しい響きの中に、悲しみや孤独が垣間見える、晩年の傑作のひとつです。



[Profile]これまでに、第24回ショパン国際ピアノコンクールinASIA 大学生部門 アジア大会金賞・ソリスト賞・IPMカトヴィツェ賞。第23回宝塚ベガ学生ピアノコンクール 大学生部門第1位。第40回JPTAピアノオーディション 全国大会 D部門優秀賞。現在、北野裕司、赤松林太郎の各氏に師事。

まつかげ  
13. 松蔭 さとり

相愛大学 3年/ヴァイオリン

ピアノ  
鈴木 華重子



メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64 より 第3楽章

F. Mendelssohn: Violin Concerto in E Minor op.64, III. Allegro molto vivace

メンデルスゾーンは、今日でも広く知られる数多くの名作を残したドイツの作曲家です。繊細で艶やかな旋律の中に憂いを感じさせるこの曲は、ヴァイオリン三大協奏曲の一つとしても名高い作品です。特に第3楽章は、花が咲き誇るような軽快で輝かしい楽章となっており、ヴァイオリンの華やかな音色を存分にお楽しみいただけます。

[Profile]6歳よりヴァイオリンを始める。第74回全日本学生音楽コンクール大阪大会高校の部第1位。第12回クオリア音楽コンクール大賞。第26回姫路バルナツス音楽コンクール弦楽器部門第3位。第8回豊中音楽コンクール弦楽器部門、大学・一般の部第1位、豊中市長賞。現在池川章子、甲斐摩耶、大谷玲子の各氏に師事。相愛大学音楽学部特別奨学生。2023年度青山音楽財団奨学生。

にしざわ はる  
14. 西沢 晴

東京藝術大学 4年/テノール

ピアノ  
上田 萌莉



チマラー：「海の詩」

P.Cimara: Stornellata marinara

ボーイト：歌劇《メフィストーフェレ》より「地の果てに近づいた」

A.Boito: "Giunto sul passo estremo", from Opera Mefistofele

この曲は、タイトルの「海」を思わせる美しさと繊細な音楽が特徴です。チマラー独特の柔らかな旋律をお楽しみください。また、「地の果てに近づいた」では、老哲学者ファウストが悪魔メフィストーフェレスと契約し、青春を取り戻す物語が描かれています。至高の夢を見ながら、美の恍惚に浸りつつ息を引き取るファウストの姿を表現し、演奏いたします。

[Profile]長野県出身。長野県小諸高等学校音楽科を卒業。15歳より声楽を始める。2024年度安宅賞受賞。声楽を大石洋史、萩原潤、樋口達哉の各氏に師事。

いなづみ ひな  
15. 稲積 陽菜

桐朋学園大学 3年/ピアノ

ショパン：スケルツォ 第4番 ホ長調 op.54

F. Chopin: Scherzo No.4 E-dur, op. 54

「スケルツォ」は、イタリア語で「冗談」や「ユーモア」を意味する言葉に由来します。この曲は、ショパンが作曲した《スケルツォ》全4曲の中で唯一の長調であり、全体に明るく幸福感に満ちた雰囲気漂います。ショパンならではのエレガンスと、洗練された細部の美しさが際立つ作品です。



©ayane shindo

[Profile]第92回日本音楽コンクールピアノ部門第2位。これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、桐朋学園大学オーケストラと度々共演。ピアノを梅村祐子、本村久子、現在、沼沢淑音、三上桂子、横山幸雄の各氏に師事。室内楽を練木繁夫、山崎伸子、現在、入江一雄、堤 剛の各氏に師事。桐朋学園大学音楽部特待生。2023年度青山音楽財団奨学生。

わたなべ みお  
01. 渡邊 美音 愛知県立芸術大学 3年/ピアノ

ハイドン：ピアノ・ソナタ 第 62 番 変ホ長調 Hob.XVI:52 より 第 2 楽章、第 3 楽章

J. Haydn : Piano Sonata in E-Flat Major Hob.XVI:52, II.Adagio III.Presto

エステルハージ家に仕えたハイドンは、楽団のために多数の交響曲を作曲しました。楽団解散後、ロンドンに招かれ、1794年の2度目の滞在中に、クレメンティの弟子であるバルトロツィに技巧的な3曲のソナタを献呈しました。最後の変ホ長調のソナタは3つの楽章からなり、第2楽章は半音高いホ長調の優美な三部形式、終楽章は無窮動のソナタ形式で構成されています。

[Profile]岐阜県出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業。第29回フッペル鳥栖ピアノコンクール2023フッペル部門(最上級)入選、第9回なごや青少年ピアノコンクール大学・大学院生部門第2位。大学選抜により定期演奏会に2台ピアノで出演。川合見幸、上野栄美子、中尾純の各氏に師事。



やまもと そうた  
02. 山本 蒼太 東京藝術大学 4年/チューバ

ピアノ

上田 萌莉

アルビノーニ：オーボエ協奏曲 二短調 op.9, No.2

T. Albinoni : Oboe Concerto in D Minor, op.9 No.2

トマゾ・アルビノーニは、17世紀から18世紀のバロック時代に活躍したイタリアの作曲家です。なかでも特に取り上げられる機会が多いのが《オーボエ協奏曲》で、本日演奏する《オーボエ協奏曲 二短調》は、その芸術性の高さからチューバの国際コンクールの課題曲となることもあります。3つの楽章が織りなす美しい移ろいをお楽しみください。

[Profile]札幌市出身。チューバを玉木亮一、佐藤和彦、池田幸広の各氏に師事。第7回JETA学生ソロコンクール、チューバシニア部門第1位。第13回秋吉台音楽コンクール第2位。第39回日本管打楽器コンクール入選。ソリストとして札幌交響楽団、芸大フィルハーモニア管弦楽団と協演する。



おわき なおこ  
03. 尾脇 眞子 桐朋学園大学 4年/ヴァイオリン

バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 2 番 二短調 BWV 1004 より

I. アルマンド、II. クーラント、III. サラバンド、IV. ジーク

J.S. Bach : Partita for Solo Violin No. 2 in D Minor, BWV 1004, I.Allemande II.Courante III.Sarabande IV.Gigue

バッハの全6曲の《無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ》のなかで、最も有名な作品である《パルティータ第2番》。ドイツ風舞曲の一種であり、緩やかな十六分音符で構成される「アルマンド」、3拍子の舞曲でやや速めのテンポが特徴の「クーラント」、3拍子の2拍目にアクセントが置かれる「サラバンド」、そして8分の6拍子または8分の12拍子といった複合拍子で書かれた「ジーク」。この4曲を演奏いたします。

[Profile]第71回全日本学生音楽コンクール中学校の部全国大会第2位。宗次エンジェル基金日本演奏連盟2020.2021年度奨学生。Taipei Music Academy and Festival (TMAF) 2023にフルスカラシップ生として参加。これまでに松井直樹、加藤知子の各氏に師事。現在、原田幸一郎、神谷美千子の両氏に師事。



©SmileStyleStudio

なかそね ごう  
04. 中曾根 豪 東京藝術大学 3年/バス

ピアノ

倉橋 陽土

R. シュトラウス：《素朴な歌》 op.21 より 第 3 曲「ああ恋人よ、いまこそ別れのとき」

R. Strauss : Schlichte Weisen, op.21, Nr.3, Ach Lieb, ich muss nun scheiden

モーツァルト：歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》 K584 より「そのまなざしを彼に向けてください」

W.A.Mozart : "Rivolgete a lui lo sguardo", from Opera Cosi fan tutte K584

「ああ恋人よ、～」は、恋人との別れを仰々しい言葉で嘆いた作品です。短く素朴な旋律ながらも、シュトラウス特有の官能性がわずかに感じられます。「そのまなざしを～」は、もともと第1幕に設定されていましたが、差し替えられたことで現在は独立して演奏される演奏会用アリアとなりました。変装したグリエルモが、高らかに愛の心を歌い上げます。

[Profile]群馬県出身。群馬大学教育学部音楽専攻を首席で卒業。これまでに声楽を山崎法子、渡辺正親、甲斐栄次郎の各氏に師事。令和6年度宮田亮平奨学金を受賞。2023年度青山音楽財団奨学生。



もちつき ふみあ  
05. 望月 郁亜 愛知県立芸術大学 4年/作曲

ヴァイオリン  
深澤 旦珠



望月郁亜：《“あわ”の和音》ヴァイオリンのための

MOCHIZUKI Fumia : Chords of "Bubbles" for violin

一定の規則性を持たない音は、ピッチを感じにくいとされています。しかし、私は持続的に発生している泡の音のなかから、瞬間的にピッチを感じる体験をしました。なぜピッチを感じるのか、この現象について、スペクトル解析を用いて調べたところ、ピッチを感じる瞬間に、不完全ながら倍音構造に類似したものが形成されていることがわかりました。偶然発生したこの構造を「泡の和音」と名付け、それを素材として作曲を進めました。スペクトル解析を通じて得たデータを音符化し、楽器の特性を活かした奏法を盛り込むことで、ヴァイオリン・ソロのための作品として完成させました。4分音を用いた繊細な音程変化によって泡の不安定さを表現し、一瞬で消えてしまう「泡の和音」の儚さを描き出しています。

[Profile]6歳からピアノと作曲を始める。エレクトーン、オーボエ等様々な楽器に触れ、浜松学芸高校に入学し、作曲を専攻。大学にて、現代音楽、電子音楽、Maxmspを使用したプログラミングを専門に学ぶ。これまで作曲を、金子仁美、立花美保子、久行敏彦、安野太郎、Juha T. Koskinenの各氏に師事。

■ 休憩 ■

はぎはら りん  
06. 萩原 凜 京都市立芸術大学 4年/打楽器

北爪道夫：《サイド・バイ・サイド》打楽器ソロのための

KITAZUME Michio : "SIDE BY SIDE" for Percussion Solo

本作は、先に発表されたオーケストラ版からソロパーカッションの部分を抜き出したものであり、打楽器とオーケストラが「並びゆくもの(Side By Side)」として、それぞれ独自の音楽を展開しながら同じ時間を共有することから名付けられました。また、使用楽器や反復回数は定まっておらず、奏者が心身ともにリズムに入り込むことが重要であると記されています。

[Profile]兵庫県出身。兵庫県立兵庫高等学校卒業。第30回日本クラシック音楽コンクール打楽器部門5位。大学にて打楽器を山本毅、中村功、森本瑞生、堀内吉昌、眞鍋明日香、マリンバを沓野勢津子、大茂絵里子の各氏に師事。



ふくおか まりん  
07. 福岡 真凜 相愛大学 4年/ヴァイオリン

ピアノ  
新 ゆう



ラヴェル：ツイガーヌ

M. Ravel : Tzigane

「ツイガーヌ」はフランス語で「ジプシー」を意味します。冒頭のヴァイオリンによるカデンツァは非常に即興的で、増2度音程によるエキゾチックな響きが哀愁を漂わせます。主題が提示された後はバリエーション形式で曲が展開し、あらゆる場所に散りばめられた技巧によって、華やかさを増しながらクライマックスを迎えます。

[Profile]第73回全日本学生音楽コンクール高校の部大阪大会第1位。第1回日本国際音楽コンペティション第2位。第1回ヴロツワフ国際ヴァイオリンコンクール第2位、その他上位入賞多数。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、プロジェクトQに参加。現在、大谷玲子、中島慎子の両氏に師事。相愛大学音楽学部特別奨学生。2023年度青山音楽財団奨学生。

あべ かずき  
08. 阿部 和輝 武蔵野音楽大学 4年/ファゴット

ピアノ  
橋本 先絵



グリンカ：ヴィオラ・ソナタ (R. ショットシュタットによるファゴットとピアノ編)

M. Glinka : Viola Sonata (arr. R. Schottstadt for bassoon and piano)

本日演奏するのは、ロシアの作曲家M.グリンカが作曲したソナタです。曲は美しいメロディにあふれ、ピアノからファゴット、ファゴットからピアノへと受け継がれていきます。本来はヴィオラのための作品ですが、本日はファゴットによる演奏をお楽しみいただきたいと思います。

[Profile]太田市立太田高等学校卒業。群馬管打楽器ソロコンテストにて、群馬県知事賞・群馬県教育長賞受賞。日本クラシック音楽コンクール大学の部第4位。令和5年度、令和6年度福井直秋記念奨学金奨学生。奈波和美、岡崎耕治の両氏にファゴットを師事。コントラファゴットを山田知史氏に師事。

やくろ はなえ  
09. 矢黒 花枝 東京藝術大学 3年/ヴァイオリン

パガニーニ：パイジェットの歌劇《水車小屋の娘》より「うつろな心」による序奏と変奏曲 op.38  
N. Paganini: Introduction and Variations on Nel cor più non mi sento from Paisiello's La molinara, op. 38  
本日演奏する曲の旋律の引用元は、パイジェット作曲のアリア「もはや私の心には感じない(うつろな心)」です。愛に翻弄され苦しむ歌詞でありながら、その様子はとてもコミカルに描かれています。パガニーニによる変奏曲も、パガニーニらしい明るく晴れやかな音楽が、さまざまなテクニックを織り交ぜて奏でられるところがとても魅力的です。楽しくお聴きいただけるよう演奏いたします。



[Profile]第34回金沢市ヴァイオリンコンクール金沢市長賞。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、鶴沼音楽アカデミーなどを受講。国際音楽祭NIPPON2024フェスティバル・オーケストラの一員としてツアーに参加。これまでに水谷千尋、服部芳子、玉井菜採、堀正文の各氏に師事。

すぎうら ゆめ  
10. 杉浦 有芽 同志社女子大学 3年/ピアノ

ラヴェル：《夜のガスパール》より 第3曲「スカルボ」嬰ト短調  
M. Ravel: Gaspard de la nuit, III. "Scarbo" gis-moll

このような舞台で演奏できることを、心より光栄に思います。  
「スカルボ」は、いたずら好きの妖精です。部屋の中をめまぐるしく駆け回り、影になって伸びたり、突然煙のように消えたりと、神出鬼没な存在です。次々と悪戯を繰り返すスカルボの世界観を、ぜひお楽しみください。



[Profile]これまでに、第2回芦屋音楽コンクール大学生・大学院生の部第1位。第32回日本クラシック音楽コンクール大学生の部第4位(1位該当なし)。第8回豊中音楽コンクール大学・一般の部第3位。第14回岐阜国際音楽祭コンクール大学部門第2位。受賞多数。現在、河江優、Raffi Besalyan、塩田藍の各氏に師事。

■ 休 憩 ■

いこま ゆな  
11. 生駒 由奈 京都市立芸術大学 4年/ピアノ

ラヴェル：《鏡》より 第4曲「道化師の朝の歌」  
M. Ravel: Miroirs, No. 4. Alborada del gracioso

「道化師の朝の歌」は、組曲《鏡》全5曲のうち第4曲目です。ラヴェルは母親がスペイン出身であったことから、スペイン文化に強い関心を抱いていました。本作のみタイトルがスペイン語表記であるのも興味深い点です。ラヴェル特有の和声とスペイン風の情緒あふれるリズムが特徴的で、冒頭から道化の世界へと引き込みます。  
この素晴らしい演奏会に感謝し、心を込めて演奏いたします。



[Profile]平成30年度奈良県高等学校独奏・独唱コンクール 独奏部門 グランプリ。学内第174回定期演奏会にて、阪哲郎氏指揮のもと、京都市立芸術大学音楽学部・大学院管弦楽団と共演。imola summer music academy & festival 2024に参加し、ボリス・ベトルジャンスキー氏のマスタークラスを受講。

おおもと かずし  
12. 大本 和司 相愛大学 4年/ヴァイオリン

ピアノ  
西川 ひかり

パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲 第2番短調 op.7より 第3楽章ロンド「ラ・カンパネッラ」  
N. Paganini: Violin Concerto No.2 in B Minor, op. 7, MS 48: III. Rondo, "La Campanella"

作曲家パガニーニは伝説的なヴァイオリニストで、多くの音楽家に影響を与えました。「鐘のロンド」とも呼ばれる本作は、ピアニストであるリストにも影響を与え、彼のピアノ編曲は特に有名です。クライスラー編のトリオ部分が省略された版も存在しますが、今回はパガニーニの原曲を演奏いたします。



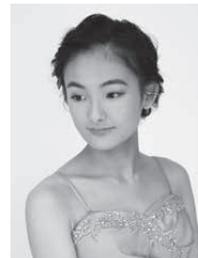
[Profile]第72回全日本学生音楽コンクール大阪大会高校の部第1位。第1回横浜国際ヴァイオリンコンクールF部門第1位。他多数受賞。プロジェクトQ第20章に参加。これまでに大阪交響楽団、相愛オーケストラと共演。現在田辺良子氏に師事。西宮市立西宮高等学校普通科卒業。相愛大学音楽学部特別奨学生。2022年度、2023年度青山音楽財団奨学生。

まきやま なお  
13. 牧山 奈央

大阪音楽大学 4年/ソプラノ

ピアノ

鈴木 こはる マケナ



R. シュトラウス：《4つの歌》op.36 より 第2曲「ツェツィーリエ」

R. Strauss : *Vier Lieder, op.27, Nr.2, Cäcilie*

グノー：歌劇《ロメオとジュリエット》より「ああ、なんという戦慄が」

C. Gounod : "*Dieu! quel frisson court dans mes veines!*", from *Opera Roméo et Juliette*

1曲目は、シュトラウスの情熱的な恋の歌です。愛する人に想いが届かず、苦しみを知らせてもらえたらどれほど嬉しいかという切実な感情が描かれています。

2曲目は、ジュリエットが父に結婚を迫られる場面です。彼女は修道士から仮死状態になる毒薬を受け取り、死を装いロメオと駆け落ちする計画を立てます。恐怖に打ち勝ち、愛と未来を信じて薬を飲む決意の瞬間が表現されています。

[Profile]大阪音楽大学短期大学部卒業時に最優秀賞受賞し、卒業演奏会に出演する。短期大学卒業後、公立中学校音楽科常勤講師、合唱部顧問を務める。大阪音楽大学に3年次編入学。奈良県高等学校独奏・独唱コンクール金賞受賞。石橋栄実、加藤かおり、三輪千賀各氏に師事。

いとう りお  
14. 伊藤 里桜

東京音楽大学 4年/フルート

ピアノ

宮阪 優奈



カルク＝エラート：シンフォニッシェ・カンツォーネ op.114

Karg-Elert : *Sinfonische Kanzone op.114*

カルク＝エラートは、19世紀末から20世紀初頭に活躍したドイツの作曲家です。《シンフォニッシェ・カンツォーネ》は、後期ロマン派と印象派が融合した独特の作品で、カンツォーネの歌謡的要素と交響的なスケールが調和し、豊かな和声と抒情的な旋律が際立ちます。静謐な美しさから劇的な展開まで、多彩な表現が詰まった魅力的な楽曲です。

[Profile]船橋市出身。第2回Kフルートコンクール高校の部優秀賞。第38回かながわ音楽コンクールフルート部門一般の部特選および神奈川新聞社社長賞。オーストリア クラーゲンフルト音楽国際夏期講習会にてミハエル・マルティン・コフラー氏のマスタークラスを受講。これまでにフルートを、河野彬、甲斐雅之の各氏に師事。東京音楽大学給費奨学生。

なかざわ まい  
15. 中澤 真唯

東京藝術大学 4年/ピアノ

ショパン：スケルツォ 第4番 ホ長調 op.54

Chopin : *Scherzo No.4 E-dur, op.54*

ショパンの《スケルツォ》前3曲に見られるような痛みや葛藤などの表現は影を潜め、喜びに溢れた作品です。穏やかな旋律と軽やかなパッセージが交互に現れる冒頭、切々と語るような中間部を経て、冒頭の主題が華やかさを持って回帰します。聴き手を翻弄するかのよう素早い転調や表情の多彩な変化など、円熟期のショパンにおける充実した作曲技法を聴くことができます。



[Profile]いしかわミュージックアカデミーにてIMA音楽賞受賞。Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール セミファイナリスト。ショパン国際ピアノコンクール in ASIA コンチェルトC部門アジア大会金賞、コンチェルト賞。藝大クラヴィーア賞を受賞し、モーニングコンサートにて藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。現在有森博、鈴木弘尚の各氏に師事。

みずの ことね  
01. 水野 琴音 東京藝術大学 3年 / ヴァイオリン

バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 1 番 ト短調 BWV 1001 より I. アダージョ、II. フーガ

J.S. Bach : Sonata for Solo Violin No. 1 in G minor, BWV 1001, I. Adagio II. Fugue

J.S. バッハ (1685-1750) の《無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ》は、3曲のソナタと3曲のパルティータから構成されており、《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番》は、その全6曲の中で最初に置かれた作品です。4つの楽章からなり、もともとは教会での演奏を目的として作曲されました。本日は、その中から第1楽章と第2楽章を演奏いたします。



[Profile] これまでに第92回日本音楽コンクール第1位、第21回東京音楽コンクール弦楽部門第2位及び聴衆賞ほか、受賞多数。使用楽器は、一般財団法人 ITOH より貸与されている1721年製の「ピエトロ グァルネリ」。現在、玉井菜採氏、堀正文氏に師事。宗次徳二特待奨学生。

いろしま まりな  
02. 色島 茉莉奈 相愛大学 3年 / フルート

ピアノ

森田 洋美

デュティユー：ソナチネ

H. Dutilleux : Sonatine for Flute and Piano

デュティユーの《ソナチネ》は初期作品ながら、無調を基調に魔法や独特のリズムが随所に見られます。第1楽章では、拍子の変化が生む微妙なスイングと流麗なメロディーが均衡を保ちながら奏でられます。第2楽章は、主題が次第に発展していく過程を描写。第3楽章はピアノのソロで始まり、フルートが軽やかに旋律を紡ぎます。幻想的なカデンツァを経て、華やかに終結へと向かいます。



[Profile] 6歳よりフルートを始める。兵庫県立西宮高等学校音楽科卒業。在学中、学内選抜によりコンチェルトにソリストとして出演。第17回日本フルートコンヴェンションアンサンブル部門金賞受賞。第74回全日本学生音楽コンクール大阪大会フルート部門高校生の部第1位。2023年にソロリサイタルを開催。現在、フルートを清水信貴、ピッコロを山腰まりに師事。相愛大学音楽学部特別奨学生。

たけうち あやか  
03. 竹内 彩華 沖縄県立芸術大学 3年 / ホルン

ピアノ

松本 亜依

プーランク：ホルンとピアノのためのエレジー FP 168

F. Poulenc : Elegie for Horn and Piano FP 168

この曲は、若くして亡くなった伝説のホルン奏者、デニス・ブレイン (1921-1957) を追悼するために、1957年にF.プーランク (1899-1963) によって作曲されました。突発的な強い音と静かな旋律が交錯する中、敬愛する音楽家を失ったことによる衝撃や虚無感が、ひしひしと伝わってくる作品です。



[Profile] 沖縄県出身。これまでに、阿部雅人、田場英子の各氏に師事。2023年度青山音楽財団奨学生。

こまつ ことね  
04. 小松 琴音 愛知県立芸術大学 4年 / ソプラノ

ピアノ

金澤 音果

ドニゼッティ：歌劇《ルクレツィア・ボルジア》より「彼は静かに眠っている... なんて美しいの！」

G. Donizetti : "Tranquillo ei posa... Com'è bello! Quale incanto!", from Opera Lucrezia Borgia

ルクレツィアは、実の息子ジェンナーロを密かに愛しながらも、その正体を明かせず苦悩しています。彼女を憎むジェンナーロが眠る間、そっと近づき、その姿を見つめながら愛情に満ちたアリアを歌います。「彼は静かに眠っている... なんて美しいのだろう！」と語る歌詞には、母としての深い愛情と、真実を告げられない悲しみが交錯するルクレツィアの複雑な心情が表現されています。



[Profile] 名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業。第74回全日本学生音楽コンクール 高校の部入選。第3回国際音楽コンクール東京第5位受賞。令和6年度山田音楽財団奨学生。これまでに大川由紀子、森川栄子の各氏に師事。

はらだ あかり  
05. 原田 明里 京都市立芸術大学 4年/ピアノ

シマノフスキ：メトープ-3つの詩 op.29 より 1. 「セイレーンの島」

K.Szymanowski: *Métopes op.29, No.1. L'île des Sirenes*

このような舞台で演奏できることを、心より光栄に思います。

セイレーンとは、ギリシャ神話に登場する、上半身は美女、下半身は鳥の姿をした怪鳥です。彼女たちは海の岩場から美しい歌声で船乗りを誘惑し、鳥へと引き寄せ、最終的に命を奪います。その魅惑的な美しさと、危険を孕んだ神秘的な世界観を表現できるよう、心を込めて演奏いたします。



[Profile]第73回全日本学生音楽コンクール高校の部大阪大会第1位、全国大会第3位。第3回京田辺市音楽コンクール一般プロフェッショナル部門金賞、京田辺市賞。第47回ピティナピアノコンペティション全国大会Pre特級ベスト賞、聴衆賞受賞。これまでに、富田有香、稲田節子、藤井隆史、白水芳枝、青柳晋、上野真の各氏に師事。

■ 休 憩 ■

よしこし たいせい  
06. 吉越 大誠 東京藝術大学 4年/箏(生田流)

尺八  
吉越 瑛山

長沢勝俊：『萌春』

NAGASAWA Katsutoshi: *Houshun*

箏と尺八が互いのメロディーを引き立てながら、曲が進んでいきます。木々の梢が新芽の色で彩られ、美しく花が咲き、鳥の鳴き声とともに春の息吹を感じるような旋律が広がります。今回の選曲にあたり、これまで勉強してこなかった難曲に挑戦しようと考え、この作品を選びました。箏と尺八が織りなす春の情景を、どうぞお楽しみください。



[Profile]春日井市出身。これまで深海さとみ、野村祐子、野村哲子、日吉章吾の各師に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学邦楽科に進学。在学中、宮城賞受賞。第20回洗足学園ジュニア音楽コンクール 最優秀賞。2024年度宮城道雄記念コンクール 一般の部 1位。第29回くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞、併せて文部科学大臣賞、熊本県知事賞。

みなみ なおみ  
07. 南 菜央美 東京藝術大学 4年/雅楽(箏)

箏  
東田 はる奈

雅楽古典曲より「迦陵頻 音取 (かりょうびんのねとり)」、「胡飲酒 序 (こんじゅのじょ)」

雅楽は日本最古の伝統音楽で、千年以上の歴史があります。《胡飲酒》は奈良時代に林邑から伝わった舞楽で、承和年間に大戸真繩と大戸清上により改作されたと伝えられています。今日は龍笛と箏の演奏で、冒頭に音合わせ《迦陵頻 音取》を演奏し、その後《胡飲酒 序》をお楽しみいただきます。



[Profile]神奈川県出身。国立音楽大学音楽学部音楽教育学科卒業。在学中に雅楽の手ほどきを受ける。現在、箏を小山貴紀、古代歌謡を小原完基、左舞を植原宏樹、雅楽合奏を新谷恵、三浦元則、八槻純子、額額拓也、各師に師事。

はたけやま はるお  
08. 畠山 春朗 東京藝術大学 3年/作曲

箏  
鹿野 竜靖

畠山春朗：《ゆらぐ / かげる》13 絃箏のための

HATAKEYAMA Haruo: *YURAGU / KAGERU*

本作品は、十三絃のソロのために作曲しました。大学に入学して以来、邦楽器を用いた作品を作る機会がありませんでしたが、今回、拙作を演奏していただける機会に恵まれ、ぜひ挑戦したいと思い作曲しました。日本人として西洋クラシックの作曲を学ぶ上で、邦楽を無視することはできません。それは、日本人作曲家のアイデンティティの一つと言えるでしょう。邦楽において大切とされる概念に「間(ま)」があります。これは、音と音の間合いの取り方を意味し、微細に揺れ動く音の隙間が、日本的な音楽の特徴を生み出しているのかもしれない。本作品では、この「間」を私なりに解釈し、単なる無音ではない「間」の取り方を追求しました。ズレていく二つの旋律が生み出す音のゆらぎや、箏の伝統的な奏法による音の陰影を感じていただければ幸いです。最後に、この演奏機会をくださった青山音楽財団様、ご指導くださった教授の方々、日々支えてくれた家族や友人、そしてご来場くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。



[Profile]東京都出身。11歳よりピアノを始め、12歳より独学で作曲を学ぶ。西洋クラシック音楽のみならず、ジャズ・ロック・ポップスなど幅広いジャンルの音楽に影響を受ける。これまでに作曲を北爪裕道、斉木由美、ピアノを橋本ゆうき、兼重松宏、ジャズピアノを新澤健一郎の各氏に師事。

たなべ そうき  
09. 田邊 奏貴 東京藝術大学 4年/オーボエ

ピアノ  
塩飽 桃加

R. シュトラウス：オーボエ協奏曲 二長調 TrV 292 より 第3楽章

R. Strauss: *Konzert für Oboe und kleines Orchester D-dur TrV 292, III. Vivace*

本作はオーボエ奏者には重要なレパートリーの一つです。先日、東京藝術大学モーニング・コンサートにて、この楽曲をオーケストラ伴奏で演奏する機会に恵まれました。本日は、第3楽章を素晴らしいピアノ伴奏とともにお届けいたします。これからも、この身で楽器を吹き続けられる限り、終わりのない音楽の道を、一步一步進んでいきたいと思っております。



©ayane shindo

[Profile]千葉県出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を卒業。「題名のない音楽会 ブリーズバンド全国大会2022」にsaigo ensemble★7として出演。第4回イブラ・グラッド・アワード・ジャパン管打楽器部門第1位を始め、コンクール受賞多数。現在、オーボエを吉井瑞穂、荒川文吉の各氏に師事。

まつもと あい  
10. 松本 亜依 沖縄県立芸術大学 2年/ピアノ

ラヴェル：《鏡》より 第2曲「悲しい鳥たち」、第4曲「道化師の朝の歌」

M. Ravel: *Miroirs, No. 2. Oiseaux tristes, No. 4. Alborada del gracioso*

《鏡》は、1904年から1905年にかけて作曲された作品で、印象主義や象徴主義の影響を色濃く感じさせます。「悲しい鳥たち」では、自由なカデンツァの音形が用いられ、暗闇の中で鳥たちが悲しげに鋭く鳴く様子が、不定形の響きの中に表現されています。「道化師の朝の歌」では、ラヴェルの母の祖国であるスペインのリズムが多用され、スペインの情緒に満ちた華やかな雰囲気が漂います。



[Profile]奈良県出身。大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。第56回新報音楽コンクールピアノ部門一般の部において第1位ならびに特賞受賞。これまでに、松本はるみ、福井重貴子、大富榮里子、小杉裕一の各氏に師事。

■ 休憩 ■

みずの としき  
11. 水野 斗希 東京藝術大学 3年/コントラバス

ラバト：スペインの歌

F. Rabbath: *Ode D'Espagne*

タバコフ：モチイビ

E. Tabakov: *Motivy*

1931年生まれのコントラバス奏者・作曲家であるラバトの無伴奏作品です。この曲は、最初から最後までピッツィカートのみで演奏されます。続く2曲目は、1947年生まれのブルガリアの指揮者・作曲家・コントラバス奏者であるタバコフの無伴奏作品です。重音、ピッツィカート、フラジオレットなど、さまざまな奏法が登場し、コントラバスの多彩な表現力を堪能できる一曲となっています。



[Profile]第1回泉の森コントラバスコンクール総合グランプリ。第21回東京音楽コンクール弦楽部門第1位。第24回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門Age-U第2位。これまでにソリストとして大阪交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでにコントラバスを榎原利修、吉田秀、池松宏、石川滋の各氏に師事。東海高等学校卒業。

しもだ ひとは  
12. 下田 一葉 東京藝術大学 2年/アルト

ピアノ  
倉橋 陽土

R. シューマン：歌曲集《ミルテの花》op.25 より 第1曲「献呈」、第3曲「くるみの木」

R. Schumann: *Myrthen, op.25, No.1 Widmung, No.3 Der Nussbaum*

モーツァルト：歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》K588 より「私を掻き乱すどうにもならない不安」

W.A. Mozart: "Ah scostati,...Smania implacabili", from Opera *Così fan tutte*, K588

第1曲目と第2曲目は、シューマンが結婚の年に妻クララへ捧げた歌曲集《ミルテの花》より。最愛の人への想いが、色鮮やかに描かれています。第3曲目は、モーツァルトの歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》第1幕より。恋人フェルランドから戦争に行くことと告げられたドラベッラが、嘘をつかれているとは知らずに嘆き悲しむ場面で歌われます。



[Profile]さいたま市出身。2008年よりピアノ、2014年より合唱、2016年より吹奏楽、2019年より声楽を始める。越谷北高等学校卒業。高校在学時、第27回全日本吹奏楽コンクール西関東大会 金賞受賞。卒業後、第2回国際声楽コンクール東京 高校3年/卒業生部門 第2位受賞。これまで声楽を根岸恭子、杉山由紀、小畑朱実、手嶋眞佐子の各氏に師事。

いけだ ともき  
13. 池田 智樹

京都市立芸術大学 4年/バリトン

ピアノ  
東辻 純

モーツァルト：歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K527より「カタログの歌」  
W.A. Mozart: "Madamina, il catalogo è questo", from Opera Don Giovanni, K527  
杉山長谷夫：「出船」  
SUGIYAMA Haseo: Defune

「カタログの歌」は、歌劇《ドン・ジョヴァンニ》に登場するレポレッロのアリアです。主人であるドン・ジョヴァンニの女性遍歴を、ユーモラスに歌い上げます。歌曲《出船》は、作詞者・勝田香月が小樽港と能代港から着想を得たとされています。雪降る港から想い人が遠くへ旅立つ情景を思い浮かべながら、お聴きいただけますと幸いです。

[Profile]京都府出身、2020年より声楽を始める。学内オペラではW.A.モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》にてレポレッロ役を演じた。これまでに声楽を上野洋子氏に師事。



あない ちひろ  
14. 穴井 智尋

京都市立芸術大学 4年/ヴァイオリン

ピアノ  
飯田 華怜

プーランク：ヴァイオリン・ソナタ FP 119 より 第1楽章  
F. Poulenc: Violin Sonata FP 119, I. Allegro con fuoco

名ヴァイオリニスト、ジネット・ヌヴェーの依頼により、第2次世界大戦中の1942年から1943年にかけて作曲されました。弦楽器よりも管楽器を好んでいたプーランクにとって、数少ない弦楽室内楽作品の一つです。また、この曲は彼が親交を深めていたスペインの詩人、ガルシア・ロルカの追悼のためにも書かれました。

[Profile]第18回セシリア国際音楽コンクールにて奨励賞受賞。2023年小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXIX、セイジ・オザワ松本フェスティバルに参加。VERÃO CLÁSSICO 10th editionにてDiproma Award 3位入賞。これまでにヴァイオリンを相原瞳、豊嶋泰嗣、深山尚久、テディ・ババヴラムの各氏に師事。



まるやま りん  
15. 丸山 凜

桐朋学園大学 4年/ピアノ

リスト：《超絶技巧練習曲》S.139より 第9番「回想」  
F. Liszt: Études D'exécution Transcendante S.139, No.9. Ricordanza

第9番「回想」は、リストの練習曲の中でも特に詩的な美しさを持つ作品です。煌びやかな装飾音や華麗なカデンツァなど、多彩な技法が随所に散りばめられています。さまざまな声部で展開される旋律は、まるで語りかけるように響きます。生まれ故郷の京都で演奏できることを、大変光栄に思います。どうぞ、お楽しみいただけましたら幸いです。

[Profile]桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）に特待生として入学。ピアノを竹内啓子、清水和音、本村久子の各氏に、室内楽を練木繁夫、竹澤恭子、徳永二男の各氏に師事。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール in Tokyo 2024ソロ部門特別賞。第7回いしかわ国際ピアノコンクール 一般部門第3位。





## 公益財団法人青山音楽財団 事業内容

### 主催公演事業

国内外から優れた演奏家を迎え、クラシック音楽発信の場として演奏会を行っています。  
室内楽専用に設計された音響を持つ200席の空間で、贅沢なひとときをお楽しみください。

### 青山音楽賞

毎年1月から12月までの期間中、バロックザールで開催し、かつエントリー条件を満たした公演の中から選考し、「新人賞」「青山賞」「バロックザール賞」の三部門で、演奏家の成長と芸術性の向上への期待を込めて「青山音楽賞」を授与しています。

### 新人助成公演・助成公演

演奏家の活動支援の一環として、ホール使用料の減免など演奏会の費用助成を行っています。

### 育成支援事業

音楽を学ぶ学生たちや団体によりよい環境づくりの支援をしています。

- ・学校等支援事業…大型楽器や楽譜の購入、マスタークラスの開催などに活用されています。
- ・奨学金事業…音楽大学または音楽学部で学ぶ優秀な学生へ奨学金の給付を行っています。

公益財団法人青山音楽財団は、広く音楽活動の普及と発展に寄与しています。詳しくはホームページをご覧ください。

[www.aoyama-music-foundation.or.jp](http://www.aoyama-music-foundation.or.jp)